

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名 (太秦中 学校)

教育目標	
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成 ～つながりを意識した学校～	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>【学校教育目標】自ら考え行動し、協働できる生徒の育成</p> <p>【目指す生徒像】周りの意見に耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒</p> <p>【目指す教職員像】愛情をもって生徒と関わりあい、ともに成長できる教職員</p> <p>年度当初に全教職員と確認し、教育活動を始めることができた。</p> <p>今年度当初も新型コロナウイルス感染防止対策をしながら「協働できる生徒」をどのように育成するのか難しい課題であったが、5月8日から「5類感染症」となり、修学旅行や体育大会、太秦文化の日などの学校行事の企画・運営を再検討し、他者とつながり認め合い協働することの大切さや楽しさを、昨年度よりも生徒へ伝えることができた。また、生徒も精一杯思いを表現・行動することができた。</p> <p>しかし、日々の授業においても教育目標達成に向けた取組が必要であり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習への転換をより進めていき、教員自身の授業に対する意識改革を進め取り組むことが課題である。また、G I G A端末を活用した効果的な授業方法の研究とその確立、家庭学習への活用もさらに推進していく必要がある。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人はもとより、保護者も認める通り自学・家庭学習には、中々積極的に取り組むことが難しいようです。中学校で学んだ基礎学力は将来への財産です。貴重な時間を大切に学んでほしいと願います。 ・アンケートを拝見し、先生や生徒同士のつながりが深いことが見られました。そして一人一人が大切にされている学校であることも感じられました。子どもたちがいろんな人とのつながりを持っていると実感できている事、うれしく思います。 ・保護者と一体となって生活リズムを整えて行くことが重要です。「しっかりととした睡眠がとれているのか」は心身の健康のバロメーターともいえます。食事や運動だけでなく、睡眠の大切さにも留意してほしいと思います。また、低年齢層で喫煙や薬物の使用が問題視されていますが、生徒はしっかりととした自覚をもち真面目に取り組んでいる事が、結果にも表れています。 ・まだまだ教職員の方々の拘束時間は長いですし、負担が大きいと思います。教職員の方々も我々と同じく子育て世代の方も多数おられると思います。今しかないわが子どもの成長を見られる家庭での時間が少しでも多くなることを願います。 ・「太秦中学校の生徒でよかったと思う」と回答した生徒が93%、これがすべて。いろいろあるけれども、よかったと思える学校づくりを引き続き進めて欲しい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年10月25日 (第2回学校運営委員会)	学校運営協議会理事

最終評価	令和6年 2月19日 (第3回学校運営委員会)	学校運営協議会理事
------	----------------------------	-----------

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して協働の基盤となる言語能力を育成する。

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する。

①教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力の育成を意識する。
- ・内容(教材)、思考ツール、話し合いの手法・GIGA端末の活用を関連単元配列表に記入。他教科との関連を交流して教科横断的な活用をめざす。

【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。特に思考力・判断力・表現力をつける授業と評価。
- ・「しなやかな道徳」研究指定を受けての授業研究の推進。

②PDCAサイクルの確立

- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う。
- ・振り返りシートを見直し、改善する。「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるもの)。
- ・スケジュール帳とキャリア・パスポートを活用する。

③人的物的資源の活用

- ・GIGA端末の授業での効果的活用
- ・より深い小中連携の実践(小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、美化活動、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有)。
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施。

④研究指定を受けての道徳授業

- ・小中連携を意識した道徳授業の展開
- ・教員の基本的な道徳の授業力・指導力の向上

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ① 自主的に家庭学習ができましたか
 - ② 自分の思っていることを人に伝えることができましたか
 - ③ 友人と仲良く協力して活動できましたか
- ・教職員アンケート結果
 - ① 「協働」を意識した授業が行えましたか
 - ② 自ら学ぶ姿勢の育成ができましたか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケートの結果	令和5年度	令和4年度
生 ①自主的に家庭学習ができましたか。	63. 6%	60. 2%
保	61. 7%	55. 0%
生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。	77. 9%	75. 3%
保	79. 5%	80. 5%
生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	79. 4%	70. 3%
保	70. 0%	72. 5%
・教職員アンケートの結果		
生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。	70. 3%	61. 8%
生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。	89. 2%	88. 2%

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果 ・1年生ジョイントプログラム国語は全市平均、数学は全市平均を下回る結果。あまり定着していない家庭学習を増やして、最終的には自学自習のできる生徒の育成を目指したい。 ・2年生学習確認プログラムは、全教科全市平均を上回った。英語については特によくできている。2年生は学力の推移としては大きく変化はないが、全体として少しづつ成果が出ている生徒が増えているようである。 ・3年生学習確認プログラム国語、社会、理科、英語は全市平均を上回った。数学は全市平均を下回る結果。理解が深いA層、B層が増え、着実に学力を伸ばしてきている。
	分析を踏まえた取組の改善
	1年生 基本の力が定着するよう、できる範囲で個別の指導などを丁寧に行っていきたい。
	2年生 学習に対する姿勢やテストに向けての取組など、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。
	3年生 進路実現に向けてさらに学力をつけていけるように取り組んでいきたい。
	全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 自主的に家庭学習ができましたか。 ② コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③ 人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。 ② 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの学習意欲は個々で違いますが、どこかでタイミングよくスイッチを入れてあげれば益々伸びてゆくと思います。一人一人の性格を鑑み先生方のご指導を願うばかりです。 ・保護者、生徒ともに自主的に家庭学習をしているとの回答が多かったことに驚きました。 ・中学校で学んだ事は、必ず将来の糧になると思います。限られた時間を大切に学んでほしい。 ・勉強・学習が楽しいと答えた生徒は50%です。それでは好きか・嫌いかと問い合わせれば、ど

のような結果になるでしょうか。理解できる・暗記が得意だとなれば、勉強・学習は嫌いにならないのではないでしょうか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果

1年生の BasicStage1 では総合が全市平均よりも下回った。社会のみ全市平均を上回った。

2年生の Pre-Stage2 では全教科全市平均を上回った。英語が全市平均を大きく上回った。

3年生の全国学力・学習状況調査の結果は国語、数学、英語とも、おおむね全国平均並みであった。

・生徒・保護者アンケートの結果

生 ①自主的に家庭学習ができましたか。

後期結果 前期結果

保

49. 6% ← 61. 7%

生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。

81. 6% ← 77. 9%

保

78. 7% ← 79. 5%

生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。

81. 5% ← 79. 4%

保

72. 4% ← 70. 0%

・教職員アンケートの結果

生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。

56. 7% ← 70. 3%

生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

93. 3% ← 89. 2%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 家庭学習の習慣や見通しをもって学習するなど、自己調整学習の力が弱い部分がある。ICTの活用による効率的・効果的な家庭学習ができるように提示していくことが課題である。
- コロナ禍で停滞したペアワークやグループワークなどの協働的な学びを各教科で再構築することも課題の1つである。年間計画・単元計画などを見直し、さらに協働的な学びを推進する。
- 多くの教科で振り返りを文で書いているが、自己変容が認識できるか、他者からの学びが入っているかが見とれるものになっているかを見直す必要がある。
- 教科によっては話合いもよく取り入れられているが、成果物としての表現の「書く」が少ない教科もある。「授業の振り返り」を工夫するなど対策を立てていく。

【次年度の課題】

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習への転換をより進めていく必要がある。教員自身の授業に対する意識改革を進めていく。
- 主体的に学習に取り組む態度の評価に適した「授業での振り返り」を研究していく。
- 研究指定（しなやかな道徳）を終えた。これを機に、道徳以外の連携も取りやすい関係づくりをめざし、小中連携を活発に推進できる下地としたい。

分析を踏まえた取組の改善

- 研修会や教科主任会等で、新学習指導要領に基づく授業のあり方や授業づくりについての工夫、改善についての研修、交流を進めていく。
- 研究主任間の小中連絡会での交流内容を強化したい。
- 中1ギャップが少しでも解消するように、小中連携を活発に推進していく。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人はもとより、保護者も認める通り自学・家庭学習には、中々積極的に取り組むことが難しいようです。教科数も多く、全ての教科を好きになる事は、大変な学習意欲とそれに伴う体力も必要であると思います。決して嫌いにならない様に、本人の学習意欲増進の為、保護者の家庭でのサポート、本人と教員との学習や学校生活についてのコミュニケーション、クラスメイトとの意見交換等、出来る事から始めてみてはいかがでしょうか。 基礎学力は将来への財産です。貴重な時間を大切に学んでほしいと願います。 生徒、保護者、教職員アンケート結果を見ると、前期よりも後期はやや教職員に十分指導が出来ていない事を感じますが、生徒は概ね出来ていると感じているようです。保護者は今一つ不満のようですが、数値ばかりにとらわれず、肌感を大切にご指導いただければと思います。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進。 「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成・深化。 「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実。 道徳的実践力を育むため、道徳教育との柱となる道徳の授業と特活・行事との連携。 学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。 生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化。 教育活動全体を通した、人権尊重の精神の育成。 生徒たちが多文化共生社会の担い手となるため、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 自分を大切にしていますか ② 他人を大切にしていますか ③ 1人1人が大切にされている学級ですか ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか 教育相談の結果

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート 	令和5年度 令和4年度
生 ①自分を大切にしていますか。	87.7% ← 83.7%
保	93.3% ← 95.6%
生 ②他人を大切にしていますか。	95.5% ← 93.2%

保		95.0% ← 97.0%
生	③一人一人が大切にされている学級ですか。	91.7% ← 88.4%
保		89.9% ← 89.8%
生	④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	91.7% ← 85.6%
保		90.5% ← 88.8%
生	⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	94.2% ← 90.4%
保		93.9% ← 95.0%
自己評価	分析（成果と課題）	
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは全ての項目で数値が上昇している。昨年度の反省を生かし、今年度は「つながり」を意識してすべての教育活動にあたっていくことを4月当初に教職員間でしっかりと確認した。また、アフターコロナで教育活動の制限がなくなったことで、生徒にとって自尊感情が高められる活動の機会が増えたことが要因であると考えられる。 保護者アンケートでは、①②⑤の項目で数値が下がっている。スマートフォンでのSNSや通信でのゲームの普及により、他者と直接コミュニケーションをとる機会が減ったり、多くの時間がそこに消費されているように大人から見れば感じられる。また、生徒自身で情報を集められるようになったことで家族や先生に頼る機会も減ったと考えられる。これらにより、保護者からすると、自分や他者をあまり大切にしていると感じられなかつたり、大人との関係が希薄化していると考えられる。 	
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none"> このアンケートの結果を真摯に受け止め、今まで以上に「つながり」を意識して、教育活動に臨む。 日々の生活で生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にする。 授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やし、自己肯定感を高めていく。 保護者に生徒の様子を伝える機会を増やしたい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。 	
学校関係者による意見・支援策	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 自分を大切にしていますか。 ② 他人を大切にしていますか。 ③ 一人一人が大切にされている学級ですか。 ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか 	

っていただきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・生徒・保護者アンケート	後期結果	前期結果
生 ①自分を大切にしていますか。	89.5%	87.7%
保	94.0%	93.3%
生 ②他人を大切にしていますか。	96.8%	95.5%
保	95.9%	95.0%
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	90.9%	91.7%
保	85.8%	89.9%
生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	90.2%	91.7%
保	91.8%	90.5%
生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	94.9%	94.2%
保	93.7%	93.9%

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none">①②の項目では、生徒・保護者ともに値が上昇している。本校は「しなやかな道徳教育」に取り組んでいる。道徳の授業を中心とした自分や他人を大切にする心を育てる教育活動が少しずつ実を結んできていると思われる。③において、①②から一人一人の心は育ってきてているように思われるが、それが行動までには現れておらず、学級の雰囲気がより良くなるまでには至っていないと考えられる。全ての生徒が大切にされていると感じる温かい学級を作る必要がある。④において、今までチームを引っ張っていた3年生が引退したことが大きな原因だと考えられる。2年生の力を育て、先輩としての責任と自覚をもち、後輩を引っ張っていけるように、教育活動を行っていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- 道徳の授業をより充実させ生徒に道徳的価値を考えさせる時間をしっかりと設けていきたい。
- 生徒の規範意識を高め、時間やルールを守り、どんな生徒も受け入れられる集団をつくることで、全ての生徒にとって教室を居心地の良い場所にしていく。
- 生徒のリーダー性を高め、大人はコーディネーターとなることで、生徒主体の活動を多く取り入れ、生徒同士のつながりを強めていく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">豊かな心を養うためには、コミュニケーションが大変必要なことは誰しもが認める所です。必ず人の話をしっかりと聞く事から始まります。話す力はそれからです。人前と言っても様々な場面があります。少人数や大勢の人前や色々な場面がありますが、落ち着いてゆっくりと、相手の顔を見てはっきりと話す事が大切です。そして、家庭において親子での道徳についての会話は、今こそ大変必要で、避けて通れない事は家庭における親子の絆を繋ぎとめる要素が、道徳にはあるからです。色々な思いをぶつける良い場所です。自分の笑顔も友達の笑顔も日々の生活を豊かにします。笑顔があふれる学校生活であってほしいです。全体的に見て豊かなこころの育みは出来ているようです。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自らの健康について考え、生涯にわたって自らの健康をコントロールし「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する。

具体的な取組

- ・食事、運動、休養、睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得。
- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用。
- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実。
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。
- ・交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実。
- ・地震、台風、豪雨、火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進。
- ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を実践できる保健教育の充実。
- ・令和5年度 京都市学校保健会 健康教育推進事業「健康教育推進校」としての子どもの命と健康を守る健康教育の実践。

(取組結果を検証する) 各種指標

・生徒、保護者アンケート結果

- ① 防災や喫煙、薬物の危険性など十分にわかりましたか
- ② 規則正しい生活ができますか
- ③ 自らの健康増進ができますか

・教職員アンケート結果

- ① 健康増進に向けた指導をできますか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケート

生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。

令和5年度 令和4年度

96.0% ← 94.9%

保

96.1% ← 95.7%

生 ②規則正しい生活ができますか。

79.9% ← 68.3%

保

73.9% ← 64.2%

生 ③自らの健康増進ができますか。

82.4% ← 75.5%

保

68.3% ← 61.6%

・教職員アンケート

健康増進に向けた指導をできますか。

91.9% ← 79.4%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・防災や喫煙・薬物の危険性の理解は、増加傾向である。今後、低下傾向にならないよう指導を継続していかなければならない。
- ・規則正しい生活や健康増進については、生徒・保護者・教職員のすべての回答が増加している。コロナが第5類に移行したが、健康に関する意識が低下することなく増加傾向であることは、

	<p>日々の家庭や学校での指導の成果であると考えられる。しかし睡眠不足や欠食が原因で体調不良を引き起こす生徒も多くいる。望ましい生活習慣について生徒自身が気づき考え行動することができるようになることが課題となっている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。 今年度5月に、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したが、今後も様々な感染症について指導を継続していく必要がある。望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。生活習慣が乱れがちな生徒に関しては個別指導を継続して行っていく。全体指導としては、保健委員会による生徒からの望ましい生活習慣や健康増進に関する発信を行い、生徒主体で取り組んでいきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができますか。 ③自らの健康増進ができますか。 教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に向けた指導をできますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者と一体となって生活リズムを整えて行くことが重要ですが、ますます社会生活が変化してゆくので自分自身の自己管理を大切に生きて行くことを自身で学ばなければならないと思います。 生徒に於いては、健康増進について、食生活や日々の生活習慣の大しさは、理解できると思います。約3年間に及ぶコロナ禍での生活が、中々元の生活に戻すことが大変なようで、ついスマホゲームに夢中になりすぎて、睡眠時間がおろそかになり、生活リズムも狂ってしまい苦労しているのではないでしょうか。 よく食べ、よく寝て、よく動く、当たり前の日常を大切にしてほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> 生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 97.7% ← 96.0% 保 92.9% ← 96.1% 生 ②規則正しい生活ができますか。 79.4% ← 79.9% 保 70.9% ← 73.9% 生 ③自らの健康増進ができますか。 81.1% ← 82.4% 保 65.3% ← 68.3% 教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> 健康増進に向けた指導をできますか。 83.3% ← 91.9%
自己	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災や防煙・薬物乱用防止に関する学びは例年通り高率で定着しているが、生活習慣について

評価	<p>は前期と比較すると、後期では低下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室の来室の多くが睡眠不足や朝食の欠食生徒であり、生活習慣の乱れによる不調が増加傾向である。生活習慣の乱れと心身の健康が密接にかかわっていることに生徒自身が気づき、考え、行動できるようにしていきたい。望ましい生活習慣に向けた指導を引き続き取り組んでいく必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察や生活調査アンケートによる生活習慣（睡眠時間、食事、直近の生活など）の様子の確認を引き続き行う。また、生活を振り返り、生活習慣の乱れが不調の原因になることを自覚させる。個別指導だけでなく、ほけんだよりや掲示物を通じて全体指導を行い、定期的に生活を振り返る機会を設ける。 ・睡眠不足の原因の一つに、スマートフォンの利用時間が長いことがあげられる。スマホは生徒たちのコミュニケーションツールの一つにもなっているため、メディア機器が睡眠にどのような影響があるのか、睡眠が心身の健康につながっていくこと等、メディア機器との上手な関わり方を指導していく。また気になる生徒に関しては、適宜対応を考え、内容を継続して共有し続けることが必要であると考える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活や学校生活においては、健康が全て左右します。早寝・早起き・食事・栄養の大切さを、家庭生活の中で親子でしっかりと考えて頂きたいと思います。今、低年齢層で喫煙や薬物の使用が問題視されていますが、生徒はしっかりと自覚のもとで理解し、真面目に取り組んでいる事が結果にも表れています。特に3年生は高校受験が差し迫り、日々の生活面で特に健康・体調管理が必要不可欠です。 ・「しっかりととした睡眠がとれているのか」は心身の健康のバロメーターともいえます。食事や運動だけでなく、睡眠の大切さにも留意してほしいと思います。

(4) 学校独自の取組

重点目標	<p>「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進 ・小中連携主任会の開催（2か月に1度程度） ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実 ・小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場の創造 (相互の行事等への参加、生徒会と児童会のさらなる連携、小学生の授業体験と部活見学への参加) ・小中PTAの合同行事を通した連携
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。（特に、しなやかな道徳）

中間評価

各種指標結果	<p>・教職員アンケート</p> <p>令和5年度 令和4年度</p>
--------	-------------------------------------

小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。

78. 4% ← 64. 7%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・夏季小中合同研修において、「しなやかな道徳」に関する研修を集合研修で行うことができました。それぞれのグループに分かれ、小中縦割りにして研修を行うことができました。太秦中ブロックでの児童生徒の実態を踏まえ、全体として、一つのテーマを掲げ、それに向けての授業案の検討を重ねていきました。それに伴い、教職員の意識も高まってきていると思われます。
- ・『9年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは、大きな成果だと考えます。
- ・相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、小中P T Aの合同行事などを、コロナ禍以前の状態に戻せるよう、検討を重ねて、実施できるようになってきました。

分析を踏まえた取組の改善

- ・小中学生がともに学び活動する場を、コロナ禍以前に戻せるよう、模索中である。特に11月に予定されているオープンスクールでは、少しでも「中学校が楽しみになる」内容になるように工夫して取り組んでいきたい。
- ・小中で連携し共通した道徳の重点項目を設定する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員アンケート

小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・生徒が抱えている様々な問題解決に、大変なご苦労があると思います。でも決して放置することは生徒と教員の信頼関係を損なう事になり、取り戻そうとしても、簡単にはいきません。必ず正面から向き合い、生徒を大切にしている事を、感じ取ってもらわればと思います。
- ・研究指定を受けられ小中連携など取り組まれています。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・教職員アンケート

後期結果

前期結果

小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 63. 3% ← 78. 4%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・小中合同で指導案検討を行い、中学校の道徳研究授業を通じ中学校の様子を見てもらい、また、小学校の道徳研究授業を通して小学校の様子を見せてもらうことにより、小中での道徳についての研修・交流を進めることができた。
- ・「しなやかな道徳」の研究授業を成功させるため、小中ともに頑張ってきた。この道徳の取組を機に、小中一貫教育をより一層進めていきたい。
- ・今年度も、「南太秦区民運動会」や「太秦福祉ふれあい祭り」に中学校の吹奏楽部が参加することができ、地域との交流を深めることができた。
- ・昨年度に引き続き、小学6年生対象のオープンスクールでは体験授業等を行うことができた。中学校のことを知ってもらい、「中学校が楽しみになる」ため、教職員と生徒会が協力して行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も小中での合同あいさつ運動を行った。児童会と生徒会の本部児童生徒が実施方法を共同で検討し実施した。児童生徒や担当教員の負担がないように、実施日数は従来どおりだが、期間にゆとりを持たせて実施した。 ・各学校の分掌の長による小中主任会を定期的に実施し、今年度の目標や取組内容、反省から来年度の課題、また小中の生徒情報交換などを行うことができた。 ・2月には小中による作品交流を行い、より一層の小中の結びつきを確認できた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しなやかな道徳」の研究指定2年間を終え、道徳を軸とした小中交流を進めていくことができた。今後は、その他の分野でも小中の共通認識を育みたい。 ・負担感なく取り組める内容であることも継続して取り組むことができるポイントである。そのことも念頭に置き、小中合同の取組を検討・模索していく。 ・そのために、小中主任会の連携をさらに密にして、実施していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に向けて、防災面だけでなく、被災後の取組や対応についても生徒と共に考えてほしい。 ・新学習指導要領やP D C Aサイクル、生活習慣、道徳教育の研究指定、小中一貫教育等多岐にわたる対応が迫られています。何れの課題も（5）の働き方改革と連動していると思います。これだけの課題を全て克服することは、先生個々の能力もあると思いますが、先ず学校全体でお互いを思いやる、理解をしてあげる、それこそコミュニケーションが大切であると思います。 ・頑張って続けてください。 ・答えをつくらず、正解を押し付けず、自分で考える道徳に変わってきている。難しく考えず、日常生活に起こる出来事から学ぶことや、行動することが大切。大人の道徳ができているのか、子どもは大人の背中を見ている。

（5）教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>教職員の超過勤務時間の縮減をめざす</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の組織化 ・各部の長による部の統括 ・個々の教職員のレベルアップ ・管理職による面談 ・電話対応時間の変更
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか ② 気持ちよく働けていますか ・出退勤システムによる超過勤務時間の様子 ・ストレスチェック

中間評価

各種指標結果	
・教職員アンケート	令和5年度 令和4年度
① 気持ちよく働けていますか。	89.2% ← 73.6%
② 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。	70.3% ← 70.6%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちよく働けていますか」の問い合わせに対して90%近くが肯定的に答えているように、教職員の協働意識は高く、組織で働くことを今後も大切にしたい。一方で、残りの10%の教職員がそうではない原因に目を向け改善していくことが大切である。 ・電話応対時間を昨年度より30分短縮し、午後6時30分まで、長期休業期間は午後5時に徹底している。また、毎週水曜日を「19時セットデー」とし退勤時間を意識した働き方を呼び掛けている。しかし、現状では19時にセットすることはできていない。 ・スクリレを活用することで、毎朝の欠席連絡による電話対応が少なくなり授業準備や朝の学活準備に専念でき働きやすくなつた。また、お便り配信を活用することでペーパーレスにつながり、さらに効率よく保護者に知らせることができ勤務時間を削減できている。 ・採点ソフト「百問繚乱」が改良され、さらに利用しやすくなり採点・評価等に関わる時間短縮ができている。 ・部活動による時間外勤務削減に課題が残る。地域移行の動向も踏まえ改善していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の偏りに目を向け、学年や分掌での役割分担等を見直していく。 ・時間外勤務を分析すると、部活動が占める割合が大きい。部活動にやりがいをもつて働いている教員も多いことから、部活動の時間を減らすといった安易な考え方ではなく、勤務時間全体を減らす意識を全教職員と共有する。 ・ICTの活用による効率的・効果的な研修、教材研究をさらにすすめ、教員の負担軽減と質の高い指導を推進していく。 ・若手への適切な指示が出せる中堅の育成、そして、そのことを通した若手の成長を図っていく。 ・「学校・幼稚園における働き方改革方針」が策定され、来年度は5か年計画の最終年度となるので、平日の学校滞在時間を月45時間・年間360時間以内が達成できるように取り組みを推進していく。休日部活動指導時間を削減していくことは課題が残る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。 ②気持ちよく働けていますか。 ・出退勤システムによる超勤時間の様子 ・ストレスチェック
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P D C A等 取り組んでおられる中、時間的な余裕も厳しいと思われます。子供たちに向き合う時間を上手に作り出していただきたいと思います。 ・まだまだ教職員の方々の拘束時間は長いですし、負担が大きいと思います。教職員の方々も我々と同じく子育て世代の方も多数おられると思います。今しかない子どもの成長を見られる時間を、家庭での時間を少しでも多くなることを願います。 ・改革が進みにくいのは、現場の先生だけの問題ではなく、委員会ももっと現場の実態を、しっ

かりと把握する必要があると思います。先生方も日々の学習に支障の出ない様な、勇断が必要でしょう。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

教職員アンケート	後期結果	前期結果
① 働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができますか。	63.3%	70.3%
② 気持ちよく働けていますか。	93.3%	89.2%

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 「働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができる」と回答した教職員が、中間評価の時よりも7%減少した。その解決に向けて、時間外勤務を個人で振り返り、また昨年度との比較もできるようにグラフを作成し共有した。教職員は時間を意識して仕事をしているが、年度当初の準備や学校行事、成績処理など業務が重なる月では、時間外勤務が削減できていない現状がある。また、育児や介護など事情があり、退勤はしているが家庭に持ち帰って仕事をせざるを得ない状況も生まれている。
- 採点処理ソフト「百問繚乱」を活用することで、採点時間短縮につながっている。また、保護者連絡ツール「スクリレ」を導入することで、毎朝の欠席連絡による電話対応が少くなり、授業準備や朝の学活準備に専念できている。加えて、学級閉鎖等の緊急対応のときも効率よく保護者や生徒に連絡や体調確認ができ、働きやすくなっている。
- 「気持ちよく働いている」と回答した教職員が4%増えた。一方、そう回答していない7%の教職員の原因に目を向け、さらに改善していく必要がある。
- まだ、時間外勤務が月80時間を超える教員が数名いる。多い時には100時間を超える場合もある。目標としている45時間以内を達成するには課題が多い。

分析を踏まえた取組の改善

- ICTの活用による効率的・効果的な授業づくりや研修、教材研究をさらにすすめ、教員の負担軽減と質の高い指導を推進していく。また、自ら進んで家庭学習を行える環境を整える方策の1つとしてもICT活用を推進していく。
- OJTを通して、実務を通じて必要な知識やスキルを身に付け、すぐに効果が発揮できるように教科間や学年間、年齢差を超えて研修できる職場づくり、また、若手教員や中堅教員がやりがいをもって働くことができる職場づくりを目指す。
- 電話対応時間（留守番設定時間）を小学校と相談しながら見直すことで、出勤時間や退勤時間を意識して働くことを継続して周知していく、時間外勤務を少しでも削減できるように促す。また、仕事量の偏りに目を向け、担任業務や学年、分掌での役割分担等を見直し、来年度に向け準備をしていく。
- 一方で、時間外勤務の縮減のために業務の効率化や簡略化のみが焦点化されないように議論することや、教職員一人一人の意見に丁寧に耳を傾けていくこと、困りを抱えた生徒や保護者に寄り添い、生徒中心に考えていくことが必要であることも教職員と確認していく。
- 時間外勤務を分析すると、休日部活動が占める割合が大きい。学校だけの取組だけでは限界がある。各部顧問だけでなく、大会や記録会を計画する中体連や各競技団体が月45時間以内の時間外勤務を意識した年間計画を立てる必要がある。今後の部活動地域移行の動向も踏まえ改善していきたい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・努力されているようですが厳しい現状が垣間見られます。 ・古い人間としては、なかなか難しい問題ですね。 ・「気持ちよく働けている」と回答した教職員が93.3%、「太秦中学校の生徒でよかったです」と回答した生徒が93%を示しているように、大人も子どもも楽しい学校生活が送られているようです。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
	具体的な取組
	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	
① 全教職員が学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める	
② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介する	
③ 生徒、保護者アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が大切にされている学級ですか ・他人を大切にしていますか
④ 生徒、保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有	
⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取り組みを説明、周知する	

中間評価

各種指標結果	令和5年度 令和4年度
	94.5%←85.3%
① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。	
② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。 ⇒ 学校だより（6月号）に掲載し、「スクリレ」配信で周知した。「スクリレ」登録していない家庭には紙面配布で周知した。	
③ 生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。	
生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	91.7%←88.4%
保	89.9%←89.8%
生「他人を大切にしていますか。」	95.5%←93.2%
保	95.0%←97.0%
④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有	97.3%←91.2%
⑤ 保護者や学校運営協議会等に学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。 ⇒学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> 多くの項目で数値が上昇している。昨年度の反省を生かし、教職員が真摯に教育活動に努めた結果であると考えている。しかし、保護者アンケートの「他人を大切にしていますか」の項目が下がっている。学校外でのSNSや通信ゲームでの会話はあまり良い言葉を使っていないと保

学校 関係 者 評 価	護者から耳にすることあった。これも原因の一つであると考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知させていくことを大切にする。 中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。 アフターコロナの今、他人と関わる、他人のことを考えることができる活動ができるようになり、より一層工夫する。 学年会、補導部会、生徒指導委員会を中心に情報を共有し組織的な対応を行う。突発的な事象が起きた際にも、報・連・相をより一層徹底していく必要がある。また、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解するように発信していく必要がある。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ② 「他人を大切にしていますか。」 教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果																			
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者に次の学校評価アンケート 																			
	<table> <tr> <td>生</td> <td>① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」</td> <td>後期結果</td> <td>前期結果</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td></td> <td>9 0. 9 %</td> <td>← 9 1. 7 %</td> </tr> <tr> <td>生</td> <td>② 「他人を大切にしていますか。」</td> <td>8 5. 8 %</td> <td>← 8 9. 9 %</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td></td> <td>9 6. 8 %</td> <td>← 9 5. 5 %</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td></td> <td>9 5. 9 %</td> <td>← 9 5. 0 %</td> </tr> </table>	生	① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」	後期結果	前期結果	保		9 0. 9 %	← 9 1. 7 %	生	② 「他人を大切にしていますか。」	8 5. 8 %	← 8 9. 9 %	保		9 6. 8 %	← 9 5. 5 %	保		9 5. 9 %
生	① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」	後期結果	前期結果																	
保		9 0. 9 %	← 9 1. 7 %																	
生	② 「他人を大切にしていますか。」	8 5. 8 %	← 8 9. 9 %																	
保		9 6. 8 %	← 9 5. 5 %																	
保		9 5. 9 %	← 9 5. 0 %																	
<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート 																				
<table> <tr> <td>① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。</td> <td>9 3. 3 %</td> <td>← 9 4. 5 %</td> </tr> <tr> <td>② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。</td> <td>9 6. 7 %</td> <td>← 9 7. 3 %</td> </tr> </table>	① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	9 3. 3 %	← 9 4. 5 %	② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	9 6. 7 %	← 9 7. 3 %														
① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	9 3. 3 %	← 9 4. 5 %																		
② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	9 6. 7 %	← 9 7. 3 %																		

価 値	<p>もてていない生徒たちが増えていると考えられる。また、発言がしやすい、自分を出しやすい温かい雰囲気が学級で作れていないことも考えられる。結果を真摯に受け止め、教育活動を見直す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員は日常の観察や各種のアンケートの中で、いじめの早期発見やいじめに発展することのないよう未然防止に努めている。その背景には、生徒指導委員会や学年体制等の組織でいじめ防止に当たっている。しかし、小さなトラブルの内容までは学年間で共有されていない可能性もある。再度、報連相の徹底をしていく必要がある。
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 人を大切にしようとする心は育ってきており、それを行動で示すことができるよう指導していきたい。また、人とのつながりを創り出していく取組を大切にし、一つ一つの取組によって人と人がどうつながっていくのかを理解した上で実践していきたい。 いじめ防止の対応には、生徒指導部と学年の縦横双方の組織で取り組む体制を今後も大切にする。また、見逃しのない観察と早期発見、指導を心がけていく。 そして、自尊感情が高まる取組や生徒同士がつながる取組を一層推進し、それを学級通信や学年だより、学校だより、またホームページ等で積極的に保護者に発信するように努めたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ対策は教員一丸となって、対応されている事は承知いたしています。 教職員の中では指導が出来ているようですが、「ばかにしたり、からかったりしたことがある」と回答した生徒が28%、「ばかにしたり、からかったりする人が多い」と回答した生徒が38%を示しているように、生徒の意識にいじめに繋がる行動も散見されます。 「太秦中学校の生徒でよかったと思う」と回答した生徒が93%、これがすべて。いろいろあるけれども、よかったと思える学校づくりを引き続き進めて欲しい。